

JF大分

水産おおいた

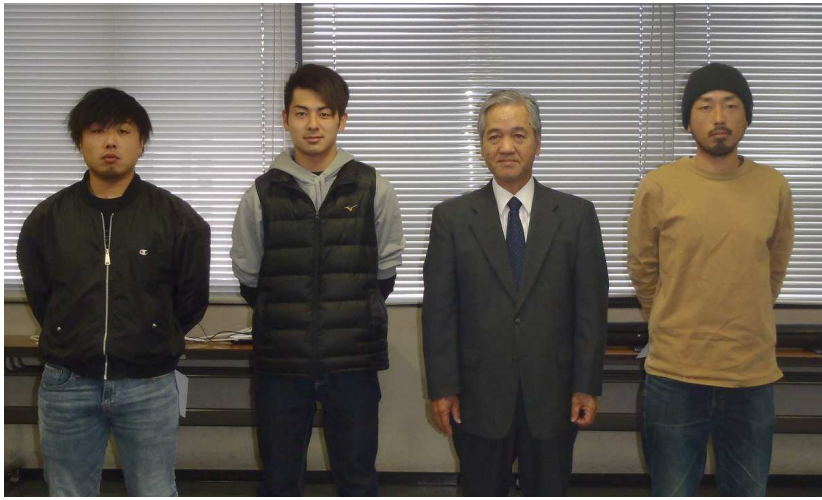
発行元 大分県漁協

令和元年度

漁業学校

令和元年度の大分県漁業学校が3月末まで開講されている。そのカリキュラムは座学及び陸上実習が140時間、漁労実

習が1,064時間で構成されている、座学内容は航海安全、船舶、気象、漁業制度、水協法などで、陸上実習は種苗生産技術、漁具作成、船舶修繕技術、加工・販売などとなっている。



今期の研修生は、上田 崎拓郎氏、榑 姫島氏、長 研修後就組 業予定)、広戸 雄大氏、白杵 氏、廣介 藻(潜水)、田 榑崎裕也氏、上 津、魚類(養殖)の3名。

組合員減少が大きな課題となっている中、将来の中

核的漁業者として活躍を期待いたします。

水産研究部 研究課題

大分県農林水産研究指導センター水産研究部で現在研究されている課題の一部を紹介する。研究項目は、2019年ブリー種苗生産結果から見える課題「鈴木、資源増殖」、マダコ卵の人工孵化試験と仔ダコの飼育チャレンジ」濱田、北部グループ資源)、潮間帯を利用したマガキ天然採苗技術の現地実証(森本、北部増殖)、佐伯市蒲江地区におけるヒオウギガイの天然採苗試験(山本、南部局)、天分県の豊後水道域におけるアオリイカの外套背長組成と成熟(横山、資源増殖)、オニオコゼにおける実用規模での寒冷麻醉法の適用事例(山本、漁業公社)、CT技術を用いた赤潮監視の取組(井口、養殖環境)、近年の周防灘におけるカレンニアミキモトイ赤潮発生年の特徴と

その予察の検討(岩野、北部環境)、クルマエビ養殖池における水質環境の変動特性(山田、北部増殖)、ブリのI型及びII型レンサ球菌症に対する単価及び二価ワクチンの効果(木本、養殖環境)、遺伝子解析を用いた分離菌同定手法の導入の試み(吉岡、北部増殖)、評量魚群探知機による資源量推定を旨指して(竹尻、資源増殖)、柞築市守江湾における2x3mmサイズの人工種苗と被覆網を用いたアサリ育成試験(山田、北部増殖)、刀ボス生果皮ペースト展着EIPを給餌したかぼすブリ(安原、養殖環境)、新豊洋の紹介と今後の運用の可能性(長田、豊洋)である。盛りだくさんの内容が研究されているが、気になる研究があれば、ぜひ水産研究部等に問い合わせを。

サワラの資源管理

令和元年度第2回サワラ瀬戸内海系群資源管理

漁業者協議会が2月20日に神戸市で開催された。サワラ瀬戸内海系群の資源水準は6,040ト

ンで、中位、減少傾向、若齢主体、大型、早熟との評価報告が瀬戸内海区水産研究所からあった。大分県における元年秋漁(7/11月)のサワラ漁獲量は94.5トンで、昨年の155%と増加した。このうちサワラは59.2トン、サゴシは35.4トンでサゴシが前年の4.9倍と増加した。海域別の年間漁獲量は、伊予灘で91.0トン、周防灘では3.5トンであり、96%が伊予灘で漁獲された。隣県の愛媛県での漁獲は4/11月に66トンで昨年度の132トンを下回った。秋魚(8/11月)の海域別では燧灘・安芸灘で3.6トン、伊予灘では28.0トン漁獲されている。福岡県では16.0トンと昨年を大きく上回ったとのこと。今回の協議会で、サワ

編集後記

東京、神戸に行き大分に戻ったが、田舎になるほどマスク着用者が少なく思えた。特に、東京の公共交通機関内ではマスク非着用者はほぼ見当たらない状況であった。厚生労働省によると、新型コロナウイルスの感染は飛沫感染と接触感染によると考えられている。感染予防としては、1石鹸やアルコール消毒液などによる手洗い、2十分な睡眠とバランスの良い食事で免疫力を高める、3加湿器などで適度な湿度(50~60%)を保つ、4マスク着用などでの咳エチケットを一人ひとりが心がけてくれること。風邪の症状や発熱(37.5℃以上)が4日以上、倦怠感や呼吸困難が2日以上続く場合は、県の帰国者・接触者相談センターに連絡願います。